



湖北

長浜城歴史博物館(長浜市公園町)は開館40周年と長浜築城・開町450周年を記念し、城をライトアップする照明を更新し、LED化した。城の東西南北の隅にあった水銀灯4本が老朽化しており、8灯のLED投光器(水銀灯700W相当)に入れ替えた。これまで夜の長浜城は少し薄暗く影も多かったが、白く美しい姿で鮮明に浮かび上がるようになった。ライトアップは連日、日没



LED照明に浮かび上がる長浜城



更新前の水銀灯照明

長浜

長浜城・築城・開町450年でLEDでくつきり

から午後9時半まで実施している。

同時に同館正面玄関東側に秀吉の花押をあしらった開館40周年と開町450周年をPRする看板(縦3段、横2・7段)を設置。館内にも秀吉をモチーフにした顔出し看板

(縦1・5段、横1・2段)を置いた。同館では「LED照明になって長浜城の夜景はとてきれいになった。夜の長浜城もぜひ楽しんでほしい」とPRしている。

【長浜通信部・長谷川隆広】

家康の生涯 駅弁掛紙で長浜鉄道スクエアで30日まで

駅弁掛紙の図柄で徳川家康の生涯をたどる企画展が長浜市北船町の長浜鉄道スクエアで開かれている。30日まで。NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送に合わせて企画され、昭和後期から平成前期の20点を展示している。豊橋駅(愛知)の駅弁「三河路弁当」の掛け紙は、東三河の伝統芸能をデザイン。家康は三河の岡崎で生まれ、後に三河一國を支配する。浜松駅(静岡)の駅弁掛け紙には、家康が一時居城とした浜松城が描かれた。当時は、土作りで板葺きの城郭だったという。大阪、新大阪両駅で販売された「御弁当」には大阪城天



長浜鉄道スクエアで開かれる徳川家康の生涯をたどる駅弁掛紙でたどる企画展

守閣の絵がある。豊臣政権の五大老となった家康には、政治の場としてゆかりがあった。入館料大人300円、小学生150円。入館午前9時半〜午後4時半。会期中無休。

【長浜通信部・長谷川隆広】

湖東

彦根

県大、学生にマイボトル推進中 オリジナルデザイン制作、サーバーも拡充

県立大(彦根市八坂町)の学生グループがペットボトル使用量削減を目指す「USB0(あすば)プロジェクト」に取り組んでいる。あすばは「明日ボトル連れて行こう!」の略。昨年10月1日〜11月30日、学内2カ所に給水機を設置し、マイボトル持参を呼びかけたところ、計2274リットルの利用があり。500ミリペットボトルで換算すると4548本を削減できた。これによってCO2排出量も約238キロ減らせたという。



この実証実験を受けて今年度はサーバーの設置場所を5カ所に拡大。カモが水面に浮かぶデザインの県大オリジナルボトル(300ミリ、660円)も制作した。白、黒2種類で保温機能もある同ボトルは大学生協で販売し、新入生には入学記念品として配布した。今後も給水器使用量を定期的にチェックし、資源やエネルギー節約の啓発を進めていく。

【彦根通信部・伊藤信司】

「ひこすく」で子育て支援情報 彦根市が無料アプリ

彦根市は今年度、市民の子育てを支援する「ひこねすくすくアプリ」の配信を始めた。まずスマートフォンなどで「ひこすく」を検索し、アプリから無料アプリをダウンロードする。居住地の郵便番号を入力すれば、彦根市対応の画面に切り替わる。妊娠中の記録▽子どもの成長記録▽予防接種のスケジュール通知▽市の子育て情報通

知▽子育て施設の情報検索―などの機能が使える。さらに市が実施する育児相談事業の予約も可能。アプリをダウンロードした家族同士で、子どもの写真を共有することもできる。同市健康推進課は「少子化、核家族化が進む中、最新技術で地元の若いカップルらをサポートできれば」と話している。今年度の事業費は185万9000円。県内では甲賀、高島両市や甲良町も同様のアプリを導入したという。

【彦根通信部・伊藤信司】